

第三十九回句会 俳句

【高点句】

☆亡き友の若き日想う冬木立

〈茂〉

☆初雪の湯畑に降り闇に降り

〈明美〉

☆天辺の古巢頭に冬木立

〈眞澄〉

【各自一句】

・冬帽子負われる稚児も負ふ母も

〈一馬〉

・数え日やTODORIST書ききれず

〈撫子〉

・数へ日の小さき指折り数へ歌

〈莫院〉

・数え日や待つ身となりし子の帰省

〈茂〉

・落葉踏むざくざくと音進ませて

〈明美〉

・数え日や里に電話を掛けてみる

〈安津子〉

・断捨離で踏ん切りつかず師走かな

〈童心〉

・数へ日や賞罰もなく歳重ね

〈眞澄〉

\*以上、24句（3句ずつ8名）より、選句は11名により4句ずつ

\*高点句は、高得点の句より3句

\*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に

偶然記載された順に掲載）